

2011. 10. 12 : 平成 23 年_文教常任委員会 (第 1 号) 本文

○宇野 裕委員 2問お尋ねしたいと思います。前回も伺った点なんですけども、前回もいい御答弁をいただいたんですが、改めて質問させていただきたいと思います。今、県内に9校、9学区に1校ずつ指定されてる進学指導重点校について、これを拡充というか、ふやしていくことについて前向きな答弁をいただいたんですけども、現在の県教委としての考え方、それから今後についてお答えいただければと。お願いいたします。

○委員長 (松下浩明君) 金子教職員課長。

○説明者 (金子教職員課長) 指導重点校の拡大につきましては、現在、庁内に関係各課による検討会議を設置いたしまして、具体的な検討に入っているところでございます。内容なんですけど、いわゆる指定の時期であるとか指定の基準、あるいは学校数などを検討しているところでございます。

○委員長 (松下浩明君) 宇野委員。

○宇野 裕委員 ぜひ集中して、庁内挙げていい結果を出していただきたいとお願いをいたします。

2問目なんですけども、この常任委員会の場で唐突に質問するというのはどうかかなと思ったんですけども、通告をしてないものですから、答えられる範囲で結構です。日本は今、災害、大震災の後、大変、世界から頑張れと声をかけられ、また日本国内、頑張ってる姿勢を世界に見せてるわけでありまして、先ほど教科書の問題もありましたが、県教委として、年齢差に応じて、我が国の日本人として生まれた誇りというか、教育の現場で、広い意味では道徳教育の中に入るのかもしれないけれども、どの教科というよりも、現場で日本人に生まれてよかったと。この国はいい国なんだというような教育を現場でぜひしていただきたいと思うんですけども、現場でそういうような教育は行われているのかいないのか、ちょっとお答えできる範囲で。

○委員長 (松下浩明君) 吉開指導課長。

○説明者（吉開指導課長） 今、先生おっしゃられたように、学校ではまず道德教育。小・中学校ではきちんとした時間枠が設けられておりますし、本県においては高等学校、平成25年度から導入をするということでございます。それと、いわゆる学校の教育課程の中で言えば総合的な学習の時間の中、あるいは学校行事。これは学校によって、その中身、メニューはまちまちですけども、そういうような時間枠を使いながら、今、宇野先生おっしゃられたような、日本人としての生き方でありますとか、社会参画の態度を培うですとか、そういう教育活動が行われてるといふふうに認識しております。

○委員長（松下浩明君） 宇野委員。

○宇野 裕委員 もうちょっと具体的に伺いますが、日本という国のすばらしさは、挙げれば私なりには数多くあって、時間が限りがありますので、この場では言いませんが、県教委として、子供たちに、年齢別、小学校、中学校、高校とあると思うんですけども、日本のすばらしさを強調する場合にいろいろなジャンルがあろうと思いますけども、県教委としてアピールするために、日本という国はこういう面がすぐれてるんだということを具体的に、サンプルでも結構なんですけども、こういう日本のすばらしさを子供たちに教えていきたいんだというものがもしあれば、二、三、例で結構ですから、教えていただきたいと思います。個人的な考えでも結構です。教育長、どうでしょう。主観で結構です、日本のすばらしさ。

○委員長（松下浩明君） 教育長。

○説明者（鬼澤教育長） 個人的なことも入るかもしれませんが、学校の中において、やはり日本の持てる特徴の中で世界に誇れるもの、あるいは自信を持って、日本のそういう美点、特徴を維持し、あるいは発展させていくに足るようなもの、こういうものをやはり取り上げていくことが一番大事だと。もちろん視点としては、歴史的な視点もありましょうし、あるいは日本の持てる国土、自然に関する視点もありましょうし、あるいは現在、日本が持っている、いろいろな福祉制度であるとか、あるいは政治制度もそうなのかもしれないけども、いろんな社会制度、こういうものの中から取り上げて指導しているというのが実態だと思います。

歴史については、日本が非常に長い歴史を持ちながら営々と築いてきた歴史の中ですばらしい文化であるとか、あるいは日本の特性である勤勉であるとか、勤労であるとか、あるいは、そういう我慢強さであるとか、そういうところの伝統をしっかりと、これを受け継ぎながら、子供たちが社会、世界と向き合っていけるような、こういう指導がやはり大事でしょうし、日本の自然で見れば、四季折々の季節感があり、また豊かな自然、緑、あるいは水、こういうものに恵まれてる。その中で暮らしていくことによって、これも日本人のいろいろな生き方なり考え方、これは芸術にも影響してると思いますし、もちろん先ほど申しましたように、日本人のいろいろな特性と、そういうものにも還元してます。広い意味で文化に影響してることでございます。

また、非常に日本もいろいろな災難に多く恵まれて——恵まれたというのは言い方が縮小ですけど、災害の多い国でございます。また、歴史的にも非常に困難が多かったところは、これは学びながら、それを、いろいろな歴史的な傑人の方々が出て克服している。そういう苦勞を乗り越えながら、日本人が今の今日の日本人をつくり、私たちの生活を築き上げてきていると。こういうところは歴史の中で特定の人物学習であったり、歴史的事象から学びながら、やはりそういう今日のつくられた日本をさらにみずからの手で発展させて成長させていきたいという、そういう思いを子供たちに持っていただかなきゃいけないかと思ってるところでございます。

今回の東日本大震災でも、これは気仙沼の中学校の生徒さんの1つの卒業式での答辞がニュースでも取り上げられ、文部科学省の教育白書でも取り上げております。この災害が非常に多くのことを本当に奪っていったと。これは未曾有のことであって、大変悲しいことであると。しかし、私たちは天をうらむことはしまいと。みずから、これからまた、残された者で力を合わせて生きていくんだと。こういう思いを答辞で述べられた中学生もおられ、これも非常に、やはり今、こんな困難に向かいながらも、日本人としての生き方、これは恐らく、きょう、このときに、今回の震災で生まれた考え方じゃなくて、やはり歴史的に日本人というのは、こういう困難に立ち向かって天をうらまず、しっかり生きていこうというような、そういう発想が背景にあったんじゃないかと思えます。こういうものも含めて、やはり日本人らしく、力強く困難にも立ち向かって、さらに厳しい現実の中から新しい理想を掲げて生きていけるような、そういう日本人を築き上げていく、つくり上げて成長させていく、そういうことが大事だし、おっしゃるとおり、そういうふうさまざまな日本の美点というものを大事にしながら、誇りある日本人をもっておおらかに、また頼もしく生きていけるような、そういう日本人をぜひ教育していけるように考えていきたいと思ってるところでございます。

以上でございます。

○委員長（松下浩明君） 宇野委員。

○宇野 裕委員 最後に要望です。ただいま教育長からすばらしい御答弁をいただきました。本当にありがとうございました。もうちょっと通告をしておけば、さらにすばらしい御答弁だったと思いますけども、突然の御質問で申しわけございません。世界から見て、日本人自身が気がつかないよさというのが、世界が認めているのにもかかわらず、日本人が気がつかないよさがたくさんあります。そういうものを子供たちに、ぜひ世界は、こういうふうに日本人を評価していますよ。そういうような具体的なデータだとか、世界のあつ機関が調査したデータだとか、そういうのを子供たちに見せてあげて、日本のすばらしさ、誇りを持てるような子供たちを一人でも多くつくっていただきたいというのが私の要望です。もちろん、そういう千葉県の子供たちであってほしいし、広くは日本人であってほしいというふうに思いを込めまして、教育委員会にお願いをしたいと思います。

以上です。